



ともに歩み、ともに進む

# GSway

Vol. **18**

JULY 2023

特集

# GS SUSTAINABLE

## 環境問題とグローブシップの30年

## 「2000年以降、大きく前進した環境対策」

### 企業責任としての 温暖化対策

お客様に快適に過ごしていただく環境を維持・向上していくことは、ビルメンテナンスに携わる企業にとって最大の使命です。グローブシップは創業時から日々の業務と環境問題を表裏一体のものと捉えてサービスを提供してきましたが、環境により強く意識を向けるようになったのは、1995年の阪神淡路大震災で被災された企業の清掃業務に当たった時でした。

震災の被害を受けた現場では、大気汚染や水質汚染による影響を最小限に抑えながら、建造物の解体、撤去に伴うアスベストの飛散防止対策を行わなければなりません。早期の復興に向けて集中して対応を行う必要があった現場の作業員たちは、限られた時間の中で最大限の成果を上げられるよう、工夫と努力を重ねながら業務を遂行しましたが、この時の経験は私たちに貴重なノウハウをもたらすこととなります。

1996年に本社を中央区新富に移転したビル代行(当時)は、同時に長期経営計画を策定し、「当社は人に優しくクリーンで安全・快適な環境を創造することで社会に貢献する」という経営理念を制定します。温暖化問題が世の中で少しずつ話題になり始めた頃に既にこうした環境を意識したスローガンを打ち出したのは、当時の経営者たちが常に世の中の動きと市場の要請に目を向



左から、常務取締役 管理本部長 辰巳裕一郎、代表取締役副社長 伊藤克己、執行役員 経営企画部長 森本浩一

けていた証でもあります。

そして、2000年に矢口敏和が代表取締役社長に就任すると、環境対策はより強力に推進されていくようになります。

矢口は、環境問題を踏まえ、1996年に制定された環境マネジメントシステム(EMS)に関する国際規格であるISO 14001に早期に着目。品質の標準化を目的に、社内に認証取得に向けたISO推進委員会

を設置します。EMSのPlan(計画)・Do(実施・運用)・Check(点検)・Action(改善)というPDCAサイクルを回すための組織づくりが進められ、結果としてISO 14001認証を2001年に取得しました。同時に、先の経営理念に基づいた活動指針を「環境方針」として決めました。

その後もビルメンテナンス事業を中心に、環境に対する様々な施策を打ち出していきます。

### ファシリティマネジメントを通してサステナビリティを追求

米国でファシリティマネジメント(FM)の概念が生まれたのはもう40年以上も前のことと言われています。FMとは、ファシリティを経営資源として捉え、長期間にわたって有効活用するための手法であり、まさに現在のサステナビリティの考え方に通じます。当社が2016年に総合施設管理(IFM)の世界的企業である仏ソデクソ社と合併会社を設立した目的も、日本国内のお客様にFMに対する理解を深めていただき、より多くの企業でファシリティの価値向上を実現していただきたいと考えたからに他なりません。環境面から施設の運用・管理を考えていくことも、私たちのサービスの一つです。

代表取締役社長 矢口敏和



# GS SUSTAINABLE

Clean, Secure and Comfortable for the future.

## 環境問題とグローブシップの30年

ビルメンテナンスを主力事業とするグローブシップにとって、環境問題への取り組みは常に経営戦略の中心にありました。昨年、第3次中期経営計画の骨子として策定した「GS VISION 2030」においても、3本の柱の一つとなっているのが「サステナビリティ戦略」です。本特集では「地球にやさしく、お客様の安全・快適な環境づくりに寄与し、社員の幸せと社会の発展に貢献する」という経営理念を掲げるグローブシップが、これまでの30年間に取り組んできた様々な施策について“環境対策”という視点で振り返ります。

※ 記事制作にあたっては、矢口社長をはじめとする4名の役員に取材を行いました。  
代表取締役社長 矢口敏和                      代表取締役副社長 伊藤克己  
常務取締役 管理本部長 辰巳裕一郎        執行役員 経営企画部長 森本浩一

SUSTAINABLE

# 「省エネと快適さ、そして環境対策」

## 省エネ補助金を活用した節電対策の推進

1997年の京都議定書の採択以降は、企業における節電に対する意識が急速に高まってきました。国内でも1999年に、日本の地球温暖化対策に関する基本方針を定めた温暖化対策推進法が施行されたことから、オフィスにおける省エネ、節電対策に対する要望が当社にも非常に多く寄せられるようになります。こうしたニーズの拡大を受け、経営陣は、省エネ対策を事業の重要な柱

の一つと位置付け、電力消費を抑える様々な提案ができるよう社内体制を整備しました。

2010年に東京都が省エネ対策のための補助金事業を始めたことで、多くの企業が省エネ設備の導入や改善を進めるようになり、グローブシップでも補助金の申請などを含めたサポートを数多く手がけるようになっていきます。

そうした環境下で発生したのが、2011年の東日本大震災です。震災の影響は首都圏のビル運営のあり方にも大きく波及し、あらゆる企業で節電の努力が進められました。グ

ローブシップの現場担当者も、経験から得たノウハウをフルに活用してアドバイスさせていただきながら、建物内の照明の間引き、LEDへの更新工事、空調の温度コントロールなど、お客様の仕事に支障がない範囲での可能な限りの節電対策を、試行錯誤の中で行っていました。

## エネルギー使用量を抑制するBEMSの普及

東日本大震災を契機として普及が進んでいったのが、ビル・エネルギー

管理システム=BEMSです。ITの活用により建物内で使用される電力量を計測して「見える化」し、照明機器や空調のエネルギー利用量を制御することは、サステナブルな環境を実現する最も有効な手段の一つです。震災後の節電対策の切り札として、中小規模のビルでも徐々に導入されるようになりました。

また現代は、LEDや温水洗浄トイレなどが設置されているなど、環境にやさしく、かつ働く人にも快適なビルでなければ、容易に入居してもらえない、賃貸料も上げられない、というのが実情となっています。省エネ対応を進めるとともに、設備を更新して快適空間を創出することによって、ビルの価値は高まります。グローブシップが省エネ補助金も活用しながら、お客様が管理されているビルに新たな価値をもたらすような提案をより積極的に行うようになったのも、震災以降のことです。

## フロンガスの撤廃とPCB規制

環境に関わるもう一つの重要な



施策がフロンガス対策です。主に空調機器の冷却のために使用されていた冷媒ガスにはオゾン層を破壊する成分が含まれるということから、世界的に撤廃の動きが加速し、国内でもフロン排出抑制法が2013年に改正され、2015年から全面施行されました。

市場の動きを捉えてそれ以前から準備を進めていたグローブシップでは、お客様のビルの空調設備を地球にやさしい代替フロンに置き換えていく更新作業を、これも経済産業省の補助金を活用しながら進めていきました。現在では、この代替フロンも削減の方向にあり、徐々に省エネ型自然冷媒機器へと移行しつつあります。

また、2016年にはPCB廃棄物特別措置法の一部が改正され、PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処理・保管の動きが加速しました。主に旧式の蛍光灯や受変電設備のトランス（変圧器）などに用いられているPCBは、発がん性を有しているという理由から2001年のストックホルム条約において世界的に規制していくことが合意されました。

PCBは設備交換が行われた後も厳格に管理する義務が課されています。グローブシップでは、お客様の設備から排出されたPCBの処理を認定された施設で確実にを行い、適切に貯蔵・保管するなど、現在も継続的に支援を行っています。

## 過去30年間のグローブシップと世界の動き

年	環境に関するGSの動き	環境に係わる世の中の動き
1995年		阪神淡路大震災の発生(大気環境、水質、建築物の解体・撤去に係るアスベスト飛散防止)、容器包装リサイクル法制定
1996年	経営理念「当社は人に優しくクリーンで安全・快適な環境を創造することで社会に貢献する」(長期経営計画で制定)	薬害エイズ問題、敦賀原発2号機で冷却水漏れ事故発生、ISO14001制定
1997年	ISO推進委員会を設置	京都議定書採択、山一証券自主廃業、ロシアタンカー「ナホトカ号」重油流出事故
1999年	環境マネジメントシステム(EMS)の取り組みスタート	
2000年	矢口が社長に就任	
2001年	ISO14001取得	米国同時多発テロ事件、フロン回収・破壊法制定
2011年		東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故
2013年		フロン排出抑制法制定
2015年	グローブシップ統合(企業理念制定)	パリ協定採択、SDGsの採択
2016年	第1次中期経営計画(2016~2018)	G7伊勢志摩サミット、PCB廃棄物特別措置法改正、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」制定
2017年	GSWAY制定	
2019年	第2次中期経営計画(2019~2021)	
2020年	働き方改革分科会スタート	コロナウイルスの流行
2022年	第3次中期経営計画(2022~2024) GS VISION2030 SDGs目標の制定	
2023年	清掃サービスエコマーク取得	

## ビル管理業務の標準化でサービス品質を向上

当社も以前は、日本各地に広がる現場がそれぞれの判断で業務を遂行するという状況にありましたが、1990年台半ばになって環境問題がクローズアップされる中で、ビル管理業務の品質をさらに向上させていくためには全国の業務の標準化を図る必要があると考え、まず品質マネジメントシステムの国際標準規格であるISO 9001を取得しました。その後、環境マネジメントシステムの整備も企業責任として実行すべきであると判断したことから、社内に推進委員会を設置してISO 14001の認証取得を果たしました。当社が「クリーンで安全・快適な環境を創造する」というスローガンを掲げたのは1996年のことでしたが、いま振り返ると、かなり早くから数年先の環境変化を見据えた経営理念を制定していたものだと感じます。

代表取締役副社長 伊藤克己



SUSTAINABLE

# 「脱炭素化とSDGs目標の達成に向けて」

## オフィスと事業の両面からCO<sub>2</sub>の削減に貢献する

ビル代行と日本ビルサービスの2社を統合し、グローブシップとして新たなスタートを切った2015年は、温室効果ガスの排出削減のための国際的な枠組みとなるパリ協定が採択された年でもあります。同年には、国連総会でSDGs(Sustainable Development Goals)も採択されました。この、まさに環境改革元年と言っても良い2015年に新たな船出をしたグローブシップは、環境対策への取り組みをさらに強化していきます。2017年には企業理念や行動規範などを定めた「GSWAY」を策定し、サービス品質の向上と社会的責任の達成に向けて前進を始めます。

まず継続的な取り組みの一つとして、脱炭素化に向けた様々な施策が動き出しました。

自社内の環境改革においては、政府の掲げるカーボンニュートラルの実現目標に賛同するとともに、ターゲットを明確化し、目標を設定しました。具体的には、洗剤や紙の購入量の削減、オフィスの使用電力の削減・ペーパーレス化でゴミ排出量の削減、再生可能電力の活用、Web会議の活用等による社員の移動回数の削減など、多岐に渡ります。

その他にも、従業員のユニフォームをエコ素材に切り替える、使用済みのユニフォームをリサイクルする、災害備蓄食品をフードバンクへ寄付するといった、可能な限りの努力を続けています。

また、事業活動においてもCO<sub>2</sub>削減の取り組みを次々と展開しています。

グローブシップの主要業務である清掃、設備、警備、工事の各業務においては、2019年に導入した床面清掃ロボットWhizシリーズを始めとするロボティクス技術を積極的に活用してFMDXを推進し、業務の高品質化、効率化、省人化を進め、CO<sub>2</sub>削減に貢献しています。

また、環境負荷を低減した洗剤やワックスに切り替える、環境に配慮した資機材を調達する、洗剤の使用量をさらに適正化するという日々の業務における地道な取り組みも全国規模で進めています。こうした現場での一人一人のチャレンジの結果として、2023年春には清掃サービスの「エコマーク認定」を取得することができました。

この他にも、2022年には第3次中期経営計画と同時に、グローブシップが目指す姿を明らかにする「GS VISION 2030」を発表しましたが、その中で当社が事業を通じて貢献できるSDGs目標を明確に掲げました。さらに目標達成のために「グリーン・エンジニアリング事業室」も新設。ネットゼロ・エネルギー・ビルディングなど、新世代のエネルギーマネジメントを推進するO&M(オペレーション&マネジメント)の実現を目指しています。

### 企業はすべてのステークホルダーのために

企業の第一の目的は利益を上げることにあります。決してそれだけが企業の存在理由ではありません。すべてのステークホルダーの期待に応え、社会に貢献していくことを優先課題の一つとして取り組んでいかない限り、持続可能性のある組織を作り上げることはできません。グローブシップが策定したGS VISION 2030には、事業の成長戦略とともに、企業が長期的な視野で目指すもの、そしてすべての社員が幸せになるために何をしていくべきかという決意表明が盛り込まれています。

執行役員 経営企画部長 森本浩一

## フリーアドレス化によりオフィス空間を有効活用

およそ3年に渡って全世界を席卷したコロナウィルスの猛威は、私たちの生活や働き方の根幹を揺るがしました。グローブシップも当初はお客様の感染対策の対応に追われ、マスクや消毒液の確保に奔走しましたが、在宅ワークが徐々に広がっていく中で、オフィスの効率的な活用という新たな課題が浮かび上がってきました。

そこで2020年に、自社内に働き方改革分科会を設置し、生産性を上げるための取り組みに着手しました。業務のペーパーレス化とDXの導入、固定から携帯電話への切り替え、照明器具の照度の抑制といった様々な施策を進めましたが、最も大きな変革は、オフィス内の座席を全面的に“フリーアドレス化”する試みでした。目的はオフィス空間の有効活用に加え、社内コミュニケーションの活性化と、より創造性を発揮するための空間作りがありました。全社員にモバイルPCを配布して、どこでも仕事ができる環境を整えるとともに、減らした座席数に代わりWeb会議機能を付けたミーティングスペースやフリーエリアを大幅に増やしました。

この社内改革で得たノウハウは今

**ミッション(企業理念)**

地球にやさしく、お客様の安全・快適な環境づくりに寄与し、社員の幸せと社会の発展に貢献する

3 3 3 すべての人に健康と福祉を	4 4 4 質の高い教育をみんなに	5 5 5 ジェンダー平等を実現しよう	7 7 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 8 8 働きがいも経済成長も	11 11 11 住み続けられるまちづくりを	12 12 12 つくる責任 つかう責任	13 13 13 気候変動に具体的な対策を

後様々なお客様と共有させていただき、オフィスの快適化と効率活用というビルマネジメントの新たな領域へと発展させていきたいと考えています。

またグローブシップでは、DEI(Diversity=多様性、Equity=公平、Inclusion=包括性)の推進も重要視しています。具体的には現在、外国人をはじめとする多様な人材を積極的に採用し、外国籍の社員にも管理職の道を開くとともに、女性管理職の比率を上げる仕組みづく

りや、障がい者が仕事にやりがいを持って職場作りを推進するなど、DEI思想に基づいた様々な人材育成戦略を展開しています。

グローブシップはこれからも、お客様のオフィス運営を支えるFMパートナーとして、脱炭素やSDGsを推進し、社会に貢献するソリューションによって、快適で環境にやさしい、新次元のビルメンテナンスサービスをご提案してまいります。

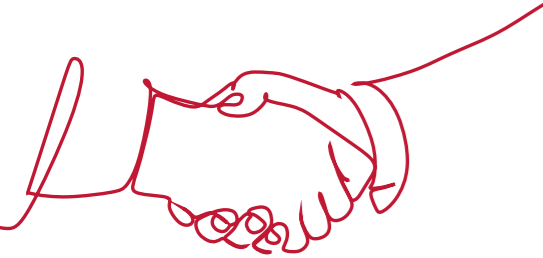
### 多様な人材の受け入れで組織は強くしなやかになる

多様な人材を受け入れ、活用していくことは、今や企業の社会的使命ともなっています。もちろん人手不足という課題を補完するものとして外国人を採用するという側面があるのは事実ですが、様々な人材を獲得していくことで、組織そのものが強靱になるばかりか、柔軟でしなやかな組織へと生まれ変わっていくのです。これこそ、サステナブルな企業へと変革していくために必要なものであり、組織として望ましい姿であると私は考えています。

常務取締役 管理本部長 辰巳裕一郎



# お客様とともに歩む。Vol.9



## 「仙台駅ビル」



仙台駅の顔となっている西口のエスパル仙台本館(左)とホテルメトロポリタン仙台(右)

### 東北を代表するランドマークとしてハイグレードな施設管理を目指す

東北地方で最大の人口を誇る仙台市。その中心部にあり、訪れる多くの人々を迎えるのが「仙台駅ビル」です。JR仙台駅を囲むように建造されたビルは全6棟。店舗やレストランなどの商業施設、ホテル、そしてオフィスビルと幅広い用途に活用されており、延べ床面積は実に168,000㎡に及びます。その多岐にわたる広大な施設を運営管理されているのが、JR東日本ビルテック株式会社の仙台支店です。

#### 新旧の6棟のビルを同じクオリティに維持する

仙台駅ビルの商業施設「エスパル」が開業したのは1978年。東北新幹線の開通を4年後に控え、着々と工事が進められている頃でした。その10年後の1988年にはホテルメトロポリタン仙台が開業し、その後も急増する国内外からの観光客やビジネス客を受け入れる総合施設として発展してきました。近年では2棟目のホテルやオフィスビルも新設され、現在、合計6棟のビルが運用されています。

一方で、当初建てられた2棟のビルは築年数がそれぞれ45年、35年に達し、老朽化対策を万全に行わなければならない状況となっています。JR東日本ビルテック株式会社 仙台支店 仙台駅ビル事業センター所長の伊藤英二様は次のように話します。

「一定の年数が経過したビルについては、建物の老朽化対策に多くの労力をかけています。年次での大規模修繕は行っていますが、水のトラブルがいつ発生するか分かりませんので、常に注意は怠らないようにしています。築年数が経っているビルでも、ご利用いただくお客様から見れば駅を中心とした一つの施設ですから、どのビルでも同じクオリティを維持していくことが重要だと考えています」

他にも仙台駅ビルの特性の一つとして挙げられるのが、駅施設に設置された冷熱源を活用しているという点です。これによりエネルギーの効率運用が図られています。また、こうした仕組みに加えて、グローブシップでも様々な省エネ対策をご提案しており、2020年にはビルオーナー様から経費節減に貢献したとして感謝状を授与されました。

「グローブシップさんは常にあらゆることに目を向けていただけるので、私たちとしても安心して任せられる、とても頼もしい存在です。駅に隣接するビルなので線路上に面する場所での作業も多いのですが、そうした現場でも細心の注意を払っていただいていますし、商業施設の入居者の皆さんを対象に行ったサービスの満足度調査でも非常に高い評価を得ています。」(伊藤様)

#### 地域の中心拠点として災害に備える

仙台駅ビルは地震対策にも最善を尽くしています。東日本大震災では仙台市内も大きな被害を受けました。それ以来、小さな揺れを感じた時でも、施設全体に問題がないかどうか細かく点検する対策を実行しています。BCP(事業継続計画)という観点においても様々な対策を講じています。例えば大きな地震などが発生した場合、ターミナル駅である仙台では帰宅困難者が多数出ることが想定されていますが、仙台駅ビルでは有事の際にホテルおよびエスパルの施設の安全を確認した後に、「一時避難場所」として帰宅困難者を受け入れることとしています。また、オフィス棟であるJR仙台イーストゲートビルでは、防災センターで働く従業員のための3日間分の食料を備蓄し



JR東日本ビルテック株式会社 仙台支店 仙台駅ビル事業センター所長 伊藤英二様(右)

ています。非常用発電設備を備えている他、建物の下には、万が一の場合にも環境への影響を最小限に抑える付帯設備として、トイレなどの排水を一時的に貯めることができる災害用の排水槽が備えられています。さらに、エスパル仙台本館とホテルメトロポリタン仙台本館では井戸水を濾過して施設内で利用していますが、有事においてはこの井戸水も近隣の方に活用いただけることになっています。

#### 現場オフィスをフリーアドレス化

JR東日本ビルテックの仙台駅ビル事業センターでは、今年の4月からオフィスのフリーアドレス化を実現しました。現

場のオフィスとしては非常に珍しいケースですが、働き方改革の一環として大きな効果を上げていると言います。「フリーアドレス化によって業務に支障が出ることもなく、コミュニケーションが図りやすくなったり、紙の書類の量が半分以下に削減されたりなど、良いこと尽くめです。お陰で仕事のクオリティも向上したと感じます」(伊藤様) さらに今後の目標について、伊藤様は次のように話します。「仙台駅ビルは、東北を代表するランドマークの一つとなっている施設だと思っています。競合となる商業施設も増えていて、環境も次々と変わっていきませんが、私たちはこの施設がいつまでもハイグレードなイメージを失わないよう、グローブシップさんのご協力を得ながらしっかり管理していきたいと考えています」

### グローブシップ 仙台駅ビル出張所 統括責任者 壺井俊一



当出張所では、本館、東館、オフィス棟の3カ所に拠点を置いて業務を行っていますが、「品質の統一」を図るために「情報共有」に重点を置いた施策を実行しています。まず3拠点で朝礼・夕礼の方法を統一して、1日の業務スタート時には「ゼロ災害で行こう! ヨン!」と発声しながらの指差し確認を必ず実行。さらに職場内ミーティングでは全員が月に1件以上のヒヤリハット案件を報告し、安全意識の向上に努めています。また将来に向けた取り組みとしては、社員全員がタブレット端末を持ち、デジタルデータを共有・分析することで、異常箇所の早期発見、早期対応を実現し、さらなるビルメンテナンスの品質向上を図っていききたいと考えています。

常駐設備管理業務: 27名を配置  
設備管理保守業務: ホテル客室 577部屋、エスパル店舗 325店舗  
(2023年6月現在)



東口のホテルメトロポリタン仙台イースト(左)とJR仙台イーストゲートビル(右)

#### Building Profile

所在地  
宮城県仙台市青葉区中央一丁目1番1号  
管理規模: 複合施設 全6棟  
延床面積: 約168,000㎡  
主要用途  
ショッピングセンター、ホテル、オフィス等

# WELCOME! 地域会社へようこそ!

全国に広がるグローブシップグループのネットワークをご紹介します。



## 石川グローブシップ株式会社

### 北陸三県を広くカバー SDGsにも積極的に取り組む

当社は、グローブシップの前身のひとつである日本ビルサービス株式会社の北陸エリア担当会社として1973年に設立されました。日本ビルサービスの創始者で金沢出身の故 浅地庄太郎氏がかねてより北陸地区への進出を企図していましたが、金沢市武蔵ヶ辻地区の再開発事業に伴い、北陸三県の中心に位置する金沢市に拠点を構えました。当時も現在と同様、人手の確保に苦勞していた時代で、隣県の富山まで峠を越えて毎日のように従業員を送り迎えていたと聞いています。

2016年には、前年のグローブシップの発足を受けて石川グローブシップへと社名変更し、現在に至っています。グローブシップ設立前は清掃業務にほぼ特化していましたが、グローブシップの創立を契機としてグループとしての連携を強化するとともに、独自の営業展開も積極的に図ることで、新規顧客を徐々に拡大してまいりました。業務範囲も設備管理、工事、警備などへと広

げ、現在ではビルの管理・運営に必要なすべての業務を包括的に代行できる総合ビル管理サービス企業へと進化しました。

2015年に北陸新幹線が金沢まで開業してからは、北陸への人の流入が急増し、中心街でのホテルの建設ラッシュなど投資も大きく増えました。さらに、自治体による地場企業への振興政策のほか、関東、関西圏の企業に対する積極的な誘致活動などにより、石川、富山、福井の北陸三県におけるビルメンテナンスのニーズは年を追うごとに拡大しています。

また金沢市では、市民、地域、NPO、企業、行政などが連携して、持続可能な金沢を実現しようというSDGsプロジェクト「IMAGINE KANAZAWA 2030」を展開していますが、当社もこの考え方に賛同し、プロジェクトのパートナーズの一員として参画しています。具体的には、環境にやさしい洗剤や資材の調達、熱中症・感染症の予防対策な

ど安全管理の強化、洗濯のすすぎ回数抑制による水の使用量の削減、分別回収やリサイクルなど3Rの推進、冷暖房設定とこまめな消灯による節電、さらには障がい者雇用や訓練教育による安全な職場づくりなど、様々な活動に取り組んでいます。

今後は、グローブシップ・グループの一員として、グループ連携をより一層強化しながら、もっと“地球にやさしい”ビル管理サービスを提供していきたいと考えています。



石川グローブシップ株式会社  
代表取締役 大野 公久

この6月には創業50周年パーティを開催し、多くのお客様からお祝いと激励の言葉を頂きました。また経済産業省の「健康経営優良法人」にも認定され、従業員の健康増進にも積極的に取り組んでいます！

#### 会社情報 石川グローブシップ株式会社

所在地: 石川県金沢市武蔵町5-36浅地ビル2F  
設立: 1973年2月5日(2016年10月1日に石川ビルサービス株式会社から社名変更)  
事業内容: ビル総合管理・設備管理・防災警備・清掃管理・環境衛生管理・庭園管理  
主な管理ビル: 香林坊東急スクエアビル、金沢パークビル、住友生命金沢上堤町ビル、JR金沢駅西第三NKビル、金沢駅東地下広場、中屋三井ビル、ワキタ金沢ビル、アソルティ金沢彦三ビルなど  
従業員数: 110名(パート含む)

### 恒例のGS WAYコンテストを開催

各出張所における、当社行動規範「GS WAY」の浸透を目的に、毎年開催している「GS WAYコンテスト」も今年で7回目。本社ビル9階会議室と遠隔地をリモートでつなぎ、全国約250の出張所から選ばれた7現場が出演して、現場独自の取り組みを発表しました。

開会に先立ち矢口社長より「本大会は、私たちが一番大切にしているGS WAYという考え方を全国の現場に広め、レベルを高める趣旨で開催している。GS WAYは、グローブシップグループにとってサービス品質を担保する最も大事なツールだ。業務の品質に最終到達点はないので、これからも取り組みを継続してほしい」と挨拶がありました。

受賞現場は参加した社員による投票で決定し、金賞にはチームワーク向上への取り組みが評価された「大名古屋ビルディング」が選ばれました。当社は、今後もGS WAYの浸透を図ることで業務品質を高め、お客様の満足度向上を目指します。



<金賞> 名古屋支店業務一課 大名古屋ビルディング出張所  
<銀賞> 営業四部二課 恵比寿プライムスクエア出張所  
<銅賞> 埼玉支店業務課 ファイントゥデイインダストリーズ出張所

### グローブシップ3社の合同入社式を開催

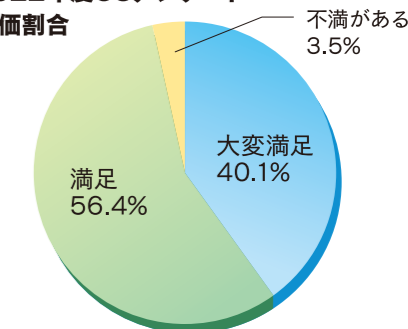


グローブシップ、アトックス、日東カストディアル・サービスのグループ3社の合同入社式が4月3日に開催されました。パンデミックの影響で、3社合同の入社式が行われるのは実に4年ぶりです。合計53名のグループ会社の新入社員の中には、女性12名、外国籍の方2名、特別支援学校の卒業生3名が含まれ、様々な持ち味と強みを持つ多様な人材が揃いました。矢口社長より、「企業活動を通じてお客様や社会に貢献していくこと、社員を幸せにするということが私たち3社の共通の目的だ」と述べた上で、グローブシップの行動規範である「GS WAY」の言葉を引用して「これから先、順風満帆でないこともあるだろうが、誇りと当事者意識を持って、果敢に挑戦してほしい」と激励の言葉が送られました。

### CSアンケートを実施

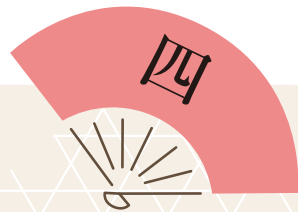
本年1月～3月に、本社および支店のお客様を対象とした2022年度CSアンケートが実施され、このたび集計がまとまりました。グローブシップの業務品質や業務についての従業員に対して「満足」「大変満足」と回答された割合は前年を0.8%上回る96.5%となり、中には「訪問頻度も多く、トラブル発生時でも本社・現場が一体となって取り組んでいただけるので、安心感がある」といった嬉しいコメントもありました。他に「営業担当者について」「コロナ禍の対応について」という設問に対しても前年を上回る高い評価を頂きました。

2022年度CSアンケート  
評価割合



全体アンケート回答数:5543設問  
「大満足」「満足」合計率:96.5%

# 春風亭昇吉の 耳寄ばなし与太ばなし



## 落

語の世界では、季節感が大切にされる。正月は『初天神』、春の桜の時期には『長屋の花見』、夏の両国の花火と  
言えば『たがや』、秋は『目黒の秋刀魚』。そして年の瀬の落語  
と  
言えば、なんとと言っても人情噺の傑作『芝浜』だ。

『芝浜』の主人公は酒好きの魚屋の勝五郎。冷蔵庫のな  
かった時代、生鮮食品は、天秤棒を担いだ棒手振り(ほてふ  
り)が、毎日売りに来た。勝五郎は、酒がもとで得意先を次々失  
い、やけになりまた、酒を飲んで仕事にいけない、という悪循環  
にはまる。ある朝、女房に急き立てられ、いやいや出かけた芝の  
浜で大金の入った皮の財布を拾う。その金で友達と飲んで、次  
の朝、女房に財布を拾ったのは夢だと告げられる。改心した勝  
五郎は一生懸命、仕事に精を出す。数年後には、表通りの一軒、  
店を持てるようになる。しっかりした女房の存在で、夫が立ち  
直っていくというストーリーだ。

グローブシップの本社ビルの真裏には、細長く本芝公園が  
ある。公園に建つ説明板によると、「この付近は、芝の中でも、  
江戸時代よりも昔から開けたところで本来の芝という意味で、  
本芝と呼ばれた。公園の位置は、東海道のうらあたりの海に面  
した砂浜で、江戸時代には、魚が水揚げされたので雑魚場と  
呼ばれた。」とある。

国語辞典を調べると、「芝」は、「東京都港区南部の、北は新橋、南は品川に接し、江戸時代は東京湾に臨む景勝地」とある。そのため、高輪ゲートウェイ駅が新設される時に、「芝浜駅」という名前を推す声もあった。しかし、狭義の芝である、本芝公園は田町駅の北側なので、少しズレていると言えないこともない。



溪斎英泉作 江戸八景 芝浦の帰帆

江戸の魚河岸は日本橋が本場で、芝の浜では、主に東京湾の  
小魚を扱っていた。ウナギ、アナゴ、キス、ハゼ、カレイ、シャ  
コ、スズキ、アジ、海老、蛤、アサリ。江戸っ子は新鮮な江戸前  
ものを「芝肴」として珍重した。

落語の『芝浜』は、幕末から明治にかけて、三遊亭圓朝が三  
題噺の会で「よっぱらい」「芝浜」「財布」の三つの題から創作  
したとされるが、異説もある。歌舞伎では、『芝浜の皮財布』と  
して、6代目尾上菊五郎によって上演された。

戦後、三代目桂三木助が、十八番とし、昭和29年度の芸術  
祭賞を受賞した。名演の音源が残っているので是非、一度聴  
いて、年の瀬の季節感と、増上寺の鐘が聞こえ、浜風が匂う、  
江戸の風情を味わって頂きたい。

東京芝と言えば、『芝浜』



春風亭昇吉／落語家

1979年岡山県生まれ。史上初の東  
大出身落語家。在学中に全日本学  
生落語選手権・策伝大賞で優勝  
し、東大で初の総長大賞に輝く。  
2007年に春風亭昇太師匠に弟子入  
り。厳しい修行時代を経て、2021年  
に真打昇進。気象予報士やテレビ  
番組の司会等、広範に活動を展開  
しています。